

所属名・氏名・修了した研修名：
青森市立北中学校 村田 正茂
(平成30年度第4回中堅教員研修)

応募部門名：
校内研修プログラム
開発・実践部門

活動名：
チーム西平内協働大作戦
～SWOT分析とクロス分析の活用～

解決すべき課題：
西平内中学校（前任校）は、全校生徒42名の小規模校で、生徒は隣接する小学校1校から全員そのまま入学してくる。そのせいか、人間関係や学習能力の序列が固定化され、学校生活は落ち着いているものの、学習意欲の低い生徒が多く、また不登校生徒もあり、そんな現状を打破しようとする意欲が全校的に低い現状にある。

目標・方針：
少人数が故に、生徒の実態を把握できているという教職員の思い込みや、生徒同士が不変と考えている人間関係などをSWOT分析により再度見直し、生徒相互の良さや保護者・地域を含めた秘めたる可能性を引き出すよう、感覚でなくクロス分析などにより具体的な方策として見だし伸ばしていく取組を、学校・地域・保護者を含めた協働作業で実践する。

- 活動内容：**
- ・生徒同士による学級集団としてのSWOT分析
 - ・教育課程編成に向けた本校教職員（事務主事を含む）によるSWOT分析及びクロス分析【図1】
 - ・教職員のPDCAサイクルによる、各分掌・各学年の学期ごとのチェックと次学期での改善アクション
 - ・生徒による学期ごと教職員の授業等の評価並びに、保護者による年2回の学校評価
 - ・校内研修のより実践的な研修内容の見直し（校外研修報告会や授業検討会など）
 - ・小中連携会議における小学校教員との児童・生徒の魅力や弱みの話合い
 - ・西地区生徒指導推進連絡協議会における情報交換（地域の生の声の交流会）
 - ・教育課程編成会議を受けた、弱みを強みに変える次年度の教育計画の作成【図2】

- 活動の成果：**
- ・行事等の実施当日の評価記入により、その成果と課題を即時に次の教育活動に生かせるような取組から、PDCAサイクルの機能を実感及び意識するようになった。
 - ・授業に対する生徒や保護者の声（評価）を真摯に受け止め、それに正面から向き合うことで、積極的に見せ合い授業を行い、その内容を研究主題の観点から見直すなど授業改善への変容が見られた。【グラフ1】
 - ・小学校教員との話合いをとおして、授業で大切にポイントや研修方法など、児童・生徒の実態を踏まえた取組方や失敗例などを忌憚なく言い合える関係づくりができるようになった。
 - ・生徒同士や事務職員を含めた教職員によるSWOT分析を通して、4つの観点から改めて西平内中学校を見直すとともに、クロス分析により新たな可能性への取組方法も見いだそうとする教職員全体の参画意識の高揚が見られた。

- アピールポイント（アイデアや工夫）：**
- ・他に自慢できる学校づくり→学校・保護者・小学校・地域一丸となってつくるチーム西平内（コンドル魂）の醸成【図3】
 - ・教頭や事務職員を含めた立場にとらわれない小集団によるSWOT分析並びにクロス分析の実践
 - ・校内研修へのこれまで以上の積極的な参加（各自1回は主担当）

<写真、図表添付欄>

図1 校内研修の充実とSWOT分析 研修資料



図2 教育課程編成の流れ

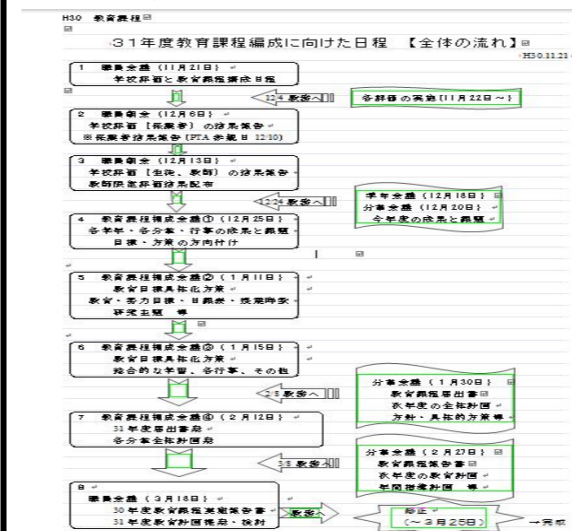


図3 チーム西平内啓発ポスター案



グラフ1 保護者学校評価（抜粋）

